



市民ネットワーク鶴ヶ島は
大野ひろ子を
市議会に送っています

ネ	ツ	ト
通	信	NO. 14

12月議会報告 2015.2
発行 / 市民ネットワーク鶴ヶ島
鶴ヶ島市富士見2-12-15



<http://www.tsuru-net.org/>

ユニバーサル社会は足元から

人に配慮した道路とは

普段なにげなく歩いていて、ちょっとした段差につまずいて転んだり、歩道から車道への急なスロープで、ヒヤッとすることがあります。

私たちが住んでいる地域は、人の動き方に配慮した道路になっているのでしょうか。

バリアフリー法には、施設や道路の環境と、高齢者や障

がい者を感じている困難を、一人ひとり

が自らの問題として認識する「心の

バリアフリー」を広げる施策が盛り込ま

れています。段差については、

スロープをつくることで解消してき

ています。

みんなでタウンウォッチング

11月、富士見中央近隣公園周辺から栄小学校、富士見中学校周辺を車椅子でタウンウォッチングしてみました。

歩道と車道の段差をスロープでつなげている箇所にさしかかると、思い通



りに操作できなくなり危険だということとがわかりました。また、歩いているときよりも歩道が狭く感じます。でこぼこも多いので、押して進むのにかなり力が必要でした。

その途中、車椅子の方に出会いました。車の走行に不安を感じながらも、車道を移動しているとのことでした。

かつては車の進入をしにくくするために、あえて歩道を高く設計していま

した。最近では、バリアフリーの観点から、歩道と車道の高さを同じにするフラット式になってきています。

市内でも市役所通りなど、数箇所は歩道と車道が同じ高さの「フラットタイプ」になっていますが、まだ「マウントアップタイプ」のままの所が随所にあり、スロープに危険を感じます。

鶴ヶ島市は、65歳以上の方が23%を超えました。

車椅子でもベーカーでも安心して外出できる、全ての人が暮らしやすいユニバーサル社会を、まず足元から実現していくことを望みます。